



大阪公立大学共同出版会

ニュースレター

No.19

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目次：

- ・第4回OMUP総会報告 常務理事 小股憲明 …… 1
- ・第19回OMUPサロン報告 …… 1
- ・書評 OMUP会員の近著「GISで学ぶ日本のヒト・自然系」
上田純一 …… 2
- ・OMUP近刊書の案内 …… 4
- ・編集後記 …… 4

第4回総会報告

常務理事 小股 憲明

平成21（2009）年6月6日（土）、午後3時から同4時まで、大阪府立大学中もずキャンパスA14棟会議室において、特定非営利活動法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）の総会が開催された。総会成立の確認、議長選出（三田朝義理事長を選出）、議事録署名人の選出のあと、平成20年度事業報告・決算、平成21年度事業計画・予算、役員の選任、定款変更などが審議されたが、その審議概要は以下の通りである。

1. 平成20年度事業報告及び決算報告について

事業報告とあわせて、田畑理一、植田英三郎両監事による会計監査により「適法かつ適正」とであると認められた「収支計算書総括表（第3期 平成20年4月1日～平成21年3月31日）」、「貸借対照表総括表（平成21年3月31日現在）」、「財産目録総括表（同前）」が、満場一致で承認された（決算報告については表1参照）。なお、「貸借対照表」「財産目録」は、昨年度総会における指摘に従って、本年度から、「収支計算書」と併せて総会に報告することとしたものである。

2. 平成21年度事業計画及び予算

平成21年度予算は表1の通りで、満場一致で可決された。

3. 役員の選出

本年度は、定款第16条の規定により、すべての役員（任期2年）が交代期となっているため、理事長、常務理事、理事、監事の全員を満場一致で再任した（「平成21・22年度役員体制」の項参照）。

4. 役員報酬に関する定款変更（大阪府認証事項）

定款第19条「役員は報酬を受けることができない。 2 前項の規定にかかわらず、常務理事は、総会の議決を経て理事長が

別に定めるところに従って、報酬を受けることができる。」との定めを、「役員は、総会の議決を経て理事長が別に定めるところに従って、報酬を受けることができる。」とする改正案を、満場一致で可決した。これは、特に業務繁多な役員に対して、適切な報酬を支払うための改正である。これにともなって、「役員報酬規定」を満場一致で可決した。

表1 平成20年度決算・平成21年度予算 (単位:円)

科 目	H20 決算額	H21 予算額
事業収入		
書籍売上	2,349,032	2,300,000
出版収入 著者負担	5,720,939	5,700,000
〃 大学負担・出版助成等	7,394,205	5,000,000
寄付金収入	130,000	30,000
入会金収入	80,000	80,000
その他の収入		
受取利息	7,007	7,000
雑収入	1,889	1
当期収入合計	15,683,072	13,117,001
売上原価		
製作費	9,899,748	7,500,000
運送・発送費	29,720	30,000
編集デザイン料	1,641,549	1,700,000
管理費		
雑給	858,000	1,500,000
業務委託費	663,166	670,000
旅費交通費	215,710	220,000
通信費	156,841	160,000
交際費	24,000	25,000
会議費	48,563	50,000
水道光熱費	19,228	20,000
著者精算	619,243	640,000
消耗品費	75,607	80,000
租税公課	600	600
事務用品費	84,860	100,000
広告宣伝	308,501	320,000
支払手数料	18,728	20,000
新聞図書費	6,300	10,000
法人税等	375,401	70,500
当期支出合計	15,045,765	13,116,100
当期収支差額	637,307	901
前期繰越収支差額	4,085,992	4,723,299
次期繰越収支差額	4,723,299	4,724,200

5. 業務委託契約等について

電話秘書業務の事務センター、杉本公認会計士事務所、HP維持管理の吉富賢太郎氏、OMUP事務局員児玉倫子氏との契約を継続することが、満場一致で可決された。また、事務局機能の強化について検討を開始することが、満場一致で承認された。

平成21・22年度役員体制

1. 理事

三田 朝義（大阪女子大学名誉教授・理事長）
足立 泰二（大阪府立大学名誉教授・総務総括常務理事）
小股 憲明（大阪府立大学人間社会学部・会計総括常務理事）
中井 孝章（大阪市立大学生生活科学部・常務理事）
平澤 栄次（大阪市立大学理学部・常務理事）
竹安 数博（大阪府立大学経済学部・常務理事）
内藤 裕義（大阪府立大学工学部・常務理事）
湯浅 勲（元大阪市立大学生生活科学部）
石井 実（大阪府立大学生命環境科学部）
八木 孝司（大阪府立大学産学官連携機構）
北村 肇（元大阪府立看護大学医療技術短期大学部）
圓藤 吟史（大阪市立大学医学部）
高辻 功一（大阪府立大学看護学部）
沼田 英治（大阪市立大学理学部）

2. 監事

田畑 理一（大阪市立大学経済学部）
植田英三郎（大阪府立大学客員研究員）

語学教育者であり得たかの話題になり、参加者、読者の共感を伴うものであった。

また、山東功先生は本著執筆上各種の困難の中、いかにして資料収集と資金調達に奔走したかの裏話とともに、府立大学の沿革の多様性と推移が現在の府立大学の特徴を象徴することを極めて鋭い分析によって取りまとめられた。

両先生の話題提供の後は懇親パーティーを兼ねて質疑応答が交わされ、和やかな中にも、次の出版計画等についても議論・披露があり有意義であった。（編集子）



中村 治 教授



山東 功 准教授

書 評

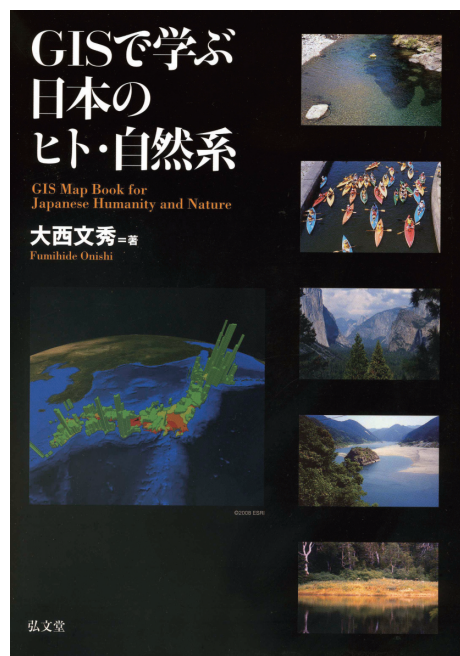
大西文秀 著「GISで学ぶ日本のヒト・自然系」弘文堂

大阪府立大学 教授 上田 純一

第19回 OMUPサロン報告

第19回OMUPサロンは、平成21年6月6日、第4回OMUP総会終了後、場所を大阪府立大学生協喫茶室「セリーゼ」に移して和やかな内に開催した。話題提供に先立ち、小股常務理事から『ラテン詩人水野有庸の軌跡』を編集された中村治（大阪府立大学人間社会学部人間科学科）教授と、『「大学」を学ぶ～大阪府立大学史への誘い～』を著述された山東功（大阪府立大学人間社会学部言語文化学科）准教授の紹介があった。

ついで、中村治先生から水野有庸先生が何故にラテン詩人であったか、この本がなぜOMUPから出版するに至ったのか、そのいきさつから始まり、水野有庸先生がいかに前代未聞の大学



新聞やテレビ等のニュースで、「地球環境」、「環境問題」、「エコ」といった言葉が聞かれない日はないくらいに「環境」は私達の生活に密着した言葉となっています。我が国では、地球環境の諸問題、すなわち「地球温暖化」、「オゾン層の破壊」、「酸性雨」、「海洋汚染」、「砂漠化」、「野生生物種の減少」等に関する問題は1960年代後半から1970年代にかけておこった

一連の社会問題に端を発しています。この様な「環境」に関する諸問題が取りだたされると、その解決に向けての方策、施策が論じられるのが常ですが、その場合に私達がまず第一に考えねばならないことは現在の（現状の）地球環境の理解です。その理解なくして最善の解決の方策や施策を策定できることはありません。

この図書の題名には「GIS」と言う耳慣れない語が書かれています。GISとは、「geographic information system」すなわち「地理情報システム」の略を指しています。地理情報とは、文字通り、その位置や特定の場所に結び付けることのできる情報を指し、その土地の自然や利用の現況、ある地域の状況の写真など幅広い情報がふくまれます。GISは、このようなきわめて多様な地理情報をコンピュータで試算し、画像化することによって、これらをデータベース化し、検索、表示、解析といった操作を簡単に行えるようにするシステムです。また、この図書の帯には「環境容量」と言う言葉も見えますが、これも一般的な言葉ではないかも知れません。私も「環境」には素人の一人ですが、「環境容量」とは、その環境が現在の環境を損なうことなく環境汚染物質をどれだけ受け入れることができるかの容量、すなわちその能力と理解することができると思っています。生態学では、その環境が養うことができる環境資源（森林、水、魚など）の最大値を意味しています。

「GISで学ぶ日本のヒト・自然系」は、著者の大西文秀氏が大阪府立大学大学院で培った環境科学の理論と方法を駆使して、環境を考える場合にきわめて重要な問題である「我が国のヒトと自然の関係」を、5つの環境容量、すなわち、「日本のCO₂固定容量」、「日本のクリーニング容量」、「日本の生活容量」、「日本の水資源容量」および「日本の木材資源容量」のエコモデルをこのGISを用いて解析し、ビジュアルなマップとして示された画期的な図書といえるでしょう。

さて、ページをめくると著者自身による巻頭言に引き続き、目次が見えます。この辺りの構成は従前の図書と変わりはありませんが、その次のページではこの図書の使い方が丁寧に説明されています。この説明文によって読者はこの図書をより効果的に使用（利用）する方法を理解することができるよう工夫されています。第1章ではヒト・自然系あるいは環境容量と言ったキーワードがならび、第2章では5つのエコモデルがそれぞれ見開きページで示されています。著者がそのエコモデルを設定したきっかけや社会的背景が説明されるとともに、どのような考え方に基いてそのエコモデルが試算されているのかが詳しく述べられています。続いてその試算結果が解説され、その結果に基づいた改善への提言が記述されています。この図書では5つのエコモデルのそれぞれについて改善へのステップが記載されています。読み進めていって感じましたことは、紙面の都合もあったでしょうが、5つの改善へのステップを総合した著者の提言がどこかにまとめとして記載されても良かったのではということでした。

第3章は総ページ数の約1/2を占め、GISマップが示されています。この図書の特徴的なことは、我が国の地方ごとに上記の5つのエコモデルのGISマップがカラー印刷で示されていることです。読者は一目瞭然でその地方のそのエコモデルのGISマップを見ることででき、また、各地方のそれを相互に比較することが可能です。我が国の環境を、その地域（地方）ごとに直接視覚的に、また、瞬時に理解することができる図書はきわめて貴重なものでしょう。

各地方のGISに続いて、第4章では「舞台裏」として特定の地域に焦点をあて、その地域の環境が何故変動するかがデータに基づいて解説されています。さらに、第5章の「エピローグ」では、環境容量から宇宙船地球号の未来を拓くためのメッセージが記載されてこの図書は締めくくられています。

文章はいずれも平易な言葉でつづられ、私の様な「環境」に素人であってもその内容を十分理解することが可能です。文面と平行して多くのカラーの図を用いて視覚的にその内容を理解することが可能となるように配慮されています。さらに、環境の第一人者が寄稿された様々な意見や提言が「環境コラム」として、また、平易な言葉で（著者の？）「環境エッセイ」がページのあちこちにつづられているのもこの図書の特徴の一つではないかと思います。

最後にこの図書を一読して再認識させられたことは、当たり前のことと言えばそれまでですが、その地域における私達人間の多様な活動は、その地域の環境容量がどの様であるかを常に意識、あるいは注意しながら、それを大きく変化させることなく、すなわち自然と調和の取れた持続可能なものであることが必要であるということでした。私と同様、「環境」は何か難しいものと考えておられる皆様方にも是非御一読をお勧めしたいと思います。

なお、上記書籍の著者 大西文秀氏はOMUPの会員である。
(編集子 記)

新刊書の紹介



「セルロースのバイオコンバージョン」

小川 喜八郎 著

セルロース性資源植物からのエタノール変換技術のめざましい成果を振り返り、近未来を展望する。

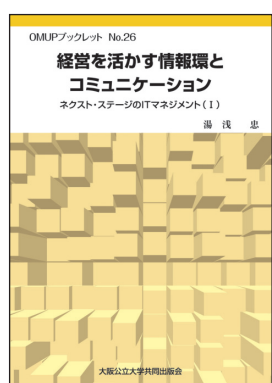
ISBN978-4-901409-63-6 103ページ

定価：1,500円+税

新刊書の紹介



ブックレット No. 25
「生きものなんでも相談」
社団法人日本動物学会近畿支部 編
日本動物学会近畿支部会員がまとめた市民向け公開講演会でのQ&A。
ISBN978-4-901409-60-5 109ページ



ブックレット No. 26
「経営を活かす情報環とコミュニケーション」
湯浅 忠 著
次世代経営を活かす情報およびシステムマネジメント。
ISBN978-4-901409-61-2 77ページ



ブックレット No. 27
「子どもの居場所と多世代交流空間」
中井 孝章 著
「共生ケア」シリーズ第二弾 地域密着型多世代交流空間の設定と理解。
ISBN978-4-901409-62-9 71ページ



ブックレット No. 28
「中世ドイツ語圏宮廷文学と日本の王朝文学」
松村 篤 著
相互に『欠如するもの』からみた日独比較の中世宮廷文芸論。
ISBN978-4-901409-64-3 86ページ

次号よりコラム「自著を語る」を設けます。

えう、ご期待!!

会員の皆様のご寄稿をお待ち致します。

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けられないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
- (2) 会員の学術図書の刊行頒布
- (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

などをおこなっているNPO法人です。参加を希望される方は下記事務局へお問い合わせください。

599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：http://www.omup.jp/

入会金：一口一万円（終身会費）

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510

編集後記

2004年国立大学が法人化し、次いで2006年には公立大学の法人化が始まり、にわかに大学名を冠した出版社、出版部、または出版会が「雨後の筍」よろしく急増傾向にある。それも大半が学内組織。いわば、経費も人員も「大学持ち」が特徴。文部科学省も「法人化で直営が可能になって各大学が後方に力を入れるようになったのだろう」とのコメント。問題は出版物の品質と市場性の両立が課題だと結んでいる（朝日新聞、2009年7月20日、大阪朝刊）。我が大阪公立大学は上記の大学出版会とは軌を同じくせず、特異な存在として展開してきた。OMUPのブランドで学術書出版、啓蒙書出版あるいは地域文化のエクステンションに少なからず貢献し、出版物の質的向上を図っていくことに励みたいものである。（T. A.）